

劇場アニメーション  
がんばって  
いきまっしょい  
*give it all*

## 雨宮天の 松山寫真旅

Matsuyama Photography Tour  
with SORA

別冊『暖暖松山』



あきらめない。  
みんなとなら言える。

# がんばって いきまっしょい *give it all*

実写映画・ドラマを経て、ついにアニメ化。  
仲間とポートと出会い、一生懸命を見つける青春物語

雨宮 天 伊藤美来 高橋李依 鬼頭明里 長谷川育美  
江口拓也 竹達彩奈 三森すずこ 内田 彩

原作：敷村良子「がんばっていきまっしょい」(幻冬舎文庫) (第4回坊っちゃん文学賞大賞受賞作品)  
監督：櫻木優平 脚本：櫻木優平 大知慶一郎  
キャラクターデザイン：西田亜沙子  
CGディレクター：川崎 司 色彩設計：田中美穂  
美術監督：平良晴佳 撮影監督：権田光一 アニメーションプロデューサー：佐久間周平  
アニメーション制作：萌 / レイルズ 音楽：林イグネル小百合

主題歌：僕が見たかった青空「空色の水しぶき」(avex trax)

協力：松山市 製作幹事：松竹  
製作：がんばっていきまっしょい製作委員会  
(松竹/パップ/テレビ東京/愛媛新聞/南海放送/テレビ愛媛/あいテレビ/愛媛朝日テレビ/エフエム愛媛)  
配給：松竹 ©がんばっていきまっしょい製作委員会

2024年 10.25<sup>FRI</sup>

全国公開

各SNSはこちら



HP



X



Instagram

劇場アニメーション「がんばっていきまっしょい」  
雨宮天の松山寫真旅 Matsuyama Photography Tour with SORA

©がんばっていきまっしょい製作委員会  
松山市 シティプロモーション推進課

発行 2024.08.10



# わたしの“好き”に出逢う旅。

知らない街、だけど、知っている街。愛媛・松山。  
素顔の自分が、降り立ったとき、どんな気持ちになるのだろう。  
もしこの町で生まれ育ったら、どんな人生だったのだろう。  
あの海も、この町並みも、悦子が青春時代を駆け抜けた景色を重ねて。  
自然に触れ、町の営みに親しみ、この空気に身をゆだねる。  
懐かしくて美しい、海の町でほぐれていく、心と体。  
歩くほどに、満たされる。そんな松山をめぐる、雨宮天の寫真旅。



フォトグラファー：藤井 啓司 (Pict PhotoEngineering)  
ライター：本田 亜由美  
ヘアメイク：尾関 真衣 (addmix B.G co.,ltd.)  
スタイリスト：新田 アキ  
衣装ブランド：三松 ふりふ



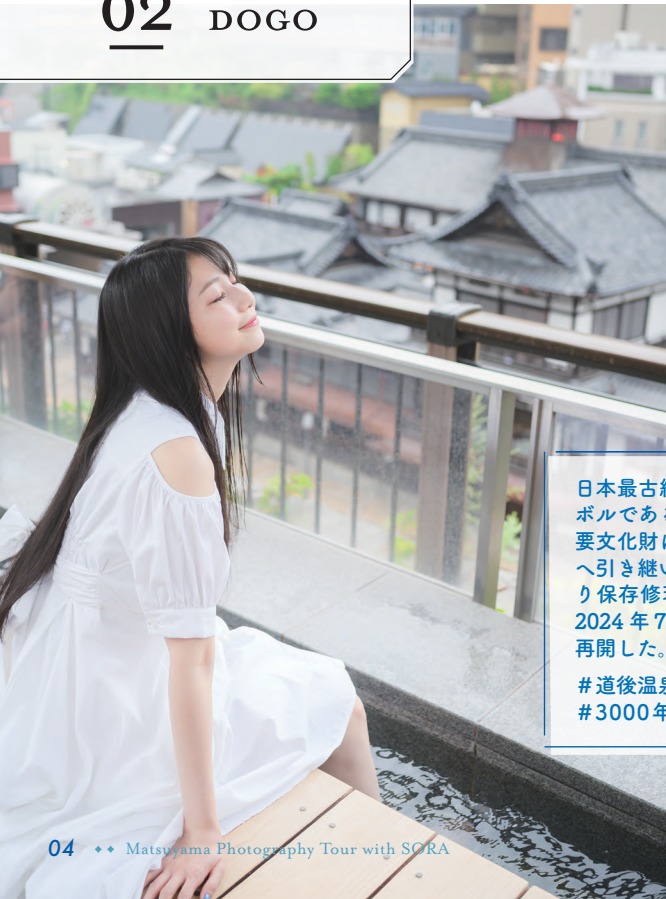
あ、道後温泉本館が目の前に現れて感動！

道後温泉へは坊っちゃん列車で。大正レトロな駅舎に、カラクリ時計、大改装を終えた道後温泉本館、恋愛のパワースポットで有名な圓満寺など、思わずカメラを向けたくなっちゃうフォトジェニックな名所がいっぱい。

あっ！これこれ！蛇口から出るオレンジジュース！坊っちゃん団子にタルトにじゃこカツ…。誘惑がいっぱいすぎてヤバイヤバイ！食べ歩きをしながら、のんびりと散歩。これがわたし流、道後の楽しみ方。



## 02 DOGO



### Check Point

日本最古級の名湯・道後温泉のシンボルである道後温泉本館は、国の重要文化財に指定されている。次世代へ引き継いでいくため5年半にわたり保存修理工事が行われてきたが、2024年7月11日、ついに全館営業を再開した。

#道後温泉本館 #改築130周年  
#3000年の歴史



## 01 MATSUYAMA CENTRAL AREA



### Check Point

松山の中心商店街に、1年で最も人が押し寄せる夏の風物詩・土曜夜市。昔ながらの露店に愛媛ならではのグルメ、キッズイベントなど催しが満載。毎年6月中旬から7月下旬まで開催され、連日5万人を超える来場者で賑わう。

#土曜夜市 #銀天街・大街道 #ロープウェー街



### 松山のメインストリート 歴史薫るお城下さんぽ

初めての愛媛県松山市。「がんばっていきまっしょい」で縁をいただいてから、行きたかった場所。東京出身の私にとって、この穏やかな空気は、何か特別なものを感じられた。

まずは百貨店の屋上にある観覧車に乗り、松山を空から眺めてみる。江戸時代の天守が残る松山城や、穏やかな瀬戸内海が織りなす美しい景色をパシヤリ。15分の空中散歩を終えて地上に降り立つと、お次は松山のメインストリート、銀天街、大街道、ロープウェー街へ。ちよっどこの日は土曜夜市で、アーケードは大賑わい！浴衣姿で街を歩けば、たちまちお祭り気分。威勢のいいお兄さんの声に釣られて射的に挑戦したり、屋台グルメを楽しんだり、松山の夏を満喫したのでした。



## 04 BAISHINJI



### ノスタルジックな景色に出会う 港町・三津浜のやさしい時間

松山市駅から電車で揺られて、悦子が暮らす三津浜へと足を伸ばす。駅前から真っ直ぐ伸びる商店街はどこか懐かしくて、まるで昭和にタイムスリップしたような気分。散策を楽しみながら、気になるお店へ立ち寄ってみる。愛媛の果実のおいしさがぎゅつと詰まったかき氷のお店に、キュートな雑貨や古道具が飾られたベーカリーカフェ。この町の魅力を噛み締めながら、「悦子もこの道を歩いたんだなあ」なんて、思い返す時間が愛おしい。

商店街を抜けて海沿いに出ると、「三津の渡し」という小さな渡し船が見えてきた。三津と対岸の港山を結ぶ、3分ほどのクルージング。船の上から眺める風景は特別感があって、船頭さんのおしゃべりも楽しい！

## 03 MITSUHAMA

### Check Point

古くから三津浜にはお好み焼きの店が多く、駄菓子屋でも売られていたという。それがいつしか名物となり「三津浜焼き」と呼ばれるように。牛脂を使ってコクを出し、半分に折たたむのが特徴。甘辛いソースをたっぷりかけていただく。

#三津浜焼き #ソウルフード



### あの青春の日々を忘れない キラキラと光る海に想う

夕暮れ迫る頃、梅津寺駅に降り立った私は、目の前に広がる海に心を奪われた。ここが、悦子たち5人がポーターに青春を捧げた場所なんだ！悩みながら、ふつかりながら、それでも前を向いて生きたあの日々。砂浜を歩きながら波の音を聞き、海風を感じていると、鮮明によみがえってくる。いつしか空はオレンジ色に染まり始めた。もうすぐ私の旅は終わり。名残惜しさを胸に海へ目を向ければ、5人の笑顔が見えた気がした。



# PHOTOS OF MY TRAVEL MEMORIES





# がんばって いきましょう!

give it all

## 作品紹介

あきらめない。みんなとなら言える。  
実写映画・ドラマを経て、ついにアニメ化。  
仲間とボートと出会い、  
一生懸命を見つける青春物語

松山でボート部に青春を賭けた女子高校生たちの物語が、現代に設定を変え、ついに初の劇場版アニメーションとなる。



## Story ストーリー

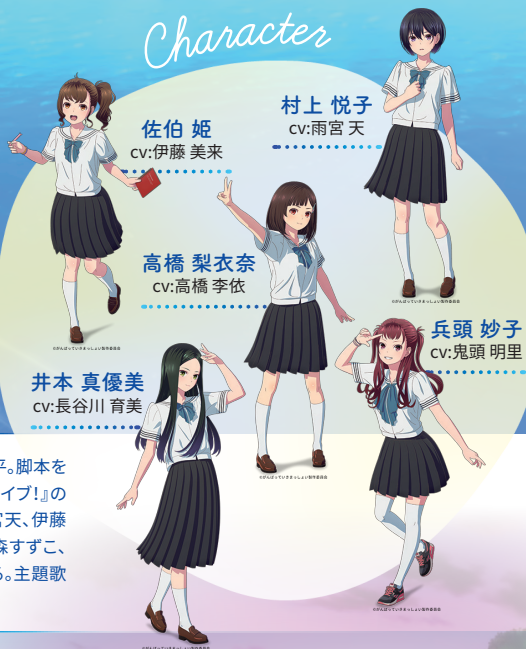
学校をあげてボートのクラスマッチを行っている三津東高校。誰もが無条件に競技に挑む中、2年生の村上悦子はひとり醒めた表情だ。才能もないのに頑張ったって仕方ない……そう気づいてからの悦子は、勝負をあきらめてばかりいる。そんなある日、悦子のクラスに高橋梨衣奈という転入生がやってきた。クラスマッチのボートに感動した梨衣奈は、悦子と幼なじみの佐伯姫を巻き込み、廃部状態だったボート部の復活に奔走する。同学年の兵頭妙子と井本真優美が入部し5人になると、名義貸しのつもりだった悦子も洪々、初の大会に出場することに。試合当日、理想と現実の差に打ちのめされてしまった悦子たち。全員がゴールをあきらめかけた瞬間、悦子がオールを再び握りしめる。「私、もっと上手になりたい」という悦子の言葉で、5人の気持ちはひとつになる――!

## Staff & Cast

### スタッフ&キャスト

監督は、『あした世界が終わるとしても』で注目を集めた櫻木優平。脚本を『五分の花嫁』の大知慶一郎、キャラクターデザインを『ラブライブ!』の西田亜沙子が担当する。ボートに青春を捧げる部員たちを雨宮天、伊藤美来、高橋李依、鬼頭明里、長谷川育美が熱演。竹達彩奈、三森すずこ、内田彩、江口拓也も魅力あるキャラクターを演じ、物語を支える。主題歌と挿入歌を歌うのは、アイドルグループ「僕が見たかった青空」。

## Character



原作

「がんばっていきましょう」  
敷村 良子 (幻冬舎文庫)

第4回坊っちゃん文学賞大賞受賞作

著者の出身地である愛媛県松山市を舞台に、ボート競技にうちこむ女子高生たちの日々を描いた青春物語。1998年にアルタミラピクチャーズ制作・田中麗奈主演で映画化、異例のロングランを遂げ、本作の成功を受けて、「スウィングガールズ」「ウォーターボーイズ」等のアルタミラピクチャーズ制作の青春映画の礎となった。2005年に関西テレビ制作にて鈴木杏、錦戸亮主演で連続ドラマ化され、日本中に感動を巻き起こした。



雨宮 天さん

## 聖地巡礼

## Interview



——ご自身が演じた村上悦子にどんな印象を受けましたか?

高校生になって挫折を味わって「このまま自分に期待しないほうが傷つかずにすむのかな」と諦めに逃げたくなくっている悦ネエの気持ち、すごくわかる!って思いました。高校生で初めてぶち当たる壁って、誰しも少なからずあると思うんです。だからみなさん共感できる部分は多いんじゃないでしょうか。

——雨宮さんご自身は、どんな高校生でしたか?

本当に悦ネエみたいな高校生でしたね。人とコミュニケーションをとることが苦手、変わりたいけど変われないという葛藤を抱えながら生きていました。でも昔から歌うことが好きだし、緊張しいでコミュニケーションの自分を

変えたいという気持ちから軽音部のボーカルをしていました。ステージ上では不思議と堂々と歌えたんです。

——悦子を演じるにあたり、どんなことを意識されましたか?

キャラクターの心情がとても丁寧に描かれている作品だと思ったので、アニメ的なお芝居ではなく、よりリアルさを意識しました。例えばボートを漕いでいるときの息を切らしながら声をあげる感じや、メンバーと言いつつ争うシーンでの思うように気持ちコントロールできないときの息遣いなど、自分自身の記憶を思い返しながら演じました。声優の仕事って、自分が人生で経験したことすべてを生かせることが魅力の一つだと思っていますが、今回は特にそれを実感しました。

——初めて訪れた松山はいかがでしたか?

私はみかんが好きで、松山に来たら「蛇口のみかんジュース」をすごく楽しみにしていたんです。念願叶って大満足です!道後温泉の商店街ではいろんなかんきつものジュースも飲み比べしました。どれも個性があっておいしかったです。中でも「清見(きよみ)」

がお気に入りです!

——最後に、ファンへのメッセージをお願いします。

松山の美しい風景、繊細な心理描写、すべてが丁寧に描かれている青春群像劇です。高校生だからこそその衝動、情熱、きつとみなさんの深いところに刺さると思います。でも観終わったらあとは爽快感というか、清々しい気持ちになっていただけるといい作品になっています。どっぷり没入して、いっぱい共感して楽しんでいただけたらうれしいです。

## PROFILE

雨宮 天 あまみや そら

8月28日生まれ。ミュージックレイン所属。主な主演作は、TVアニメ「アカメが斬る!」(アカメ)、「東京喰種」(霧嶋董香)、「七つの大罪」(エリザベス)、「この素晴らしい世界に祝福を!」(アクア)、「彼女、お借りします」(水原千鶴)、ほか多数。

